

【共同研究：書誌的研究法の考察と展開】

大正期作家の読書遍歴に関する書誌的研究

(その一) ——荷風の読書遍歴書誌——

志保田 務*
赤瀬 雅子**

目 次

- I 大正期作家の読書遍歴を巡る意図
- II 荷風の読書遍歴書誌

I 大正期作家の読書遍歴を巡る意図

1 大正文学の魅力

大正期は、実質14年程度の短い時間帯ではあるが、日本文学を一方の軸とする比較文学研究者にとっては魅力に満ちた期間である。明治に始まった西洋諸国の文学・文芸思潮の移入がどのように継承され受容・消化されて、この期の作家たちの刺激となって行ったかを知ることは、まさにすうようのことである。また今日においてはやや後位にあるやにうかがわれる伝統的な漢文学の影響が、明治という極端な脱亜入欧の四十余年を経たこの時代に、どのような形で残っているかを確認することにも大きな興味を抱かれる。大正期の文学は、人生に例えれば、明治という青年期を過ごしたのちの壮年前期にあたる時代ともいえよう。

2 作家研究法の進展～印象批判から書誌的研究へ

近代文学に関する評論は、戦後になってようやくその基盤が確立した。それは明治、大正及び昭和戦前の文学を、やや性急な形ながらも文学的に位置づけ、今後の追究の方向を模索しようとする切実な願望に裏打ちされていた。そ

こにおける『近代文学』の同人の活躍はそうしたことの証拠と言えよう。

しかしながらこれらのうちの少なからぬ論稿は、印象批判・文壇交遊地図的な所作である。つまり作家の文壇登場前後までと晩年に力点がおかれることが多く、それぞれの作家が創作の基盤を設定し最も重要と解される壮年期前半に関する記述に欠落を覚えさせられるのである。こうしたことの小さな証左は、たとえば下記のようなところにも見ることが出来る。

『日本近代文学大事典』（講談社、1977-78全6巻）を開くと、個々の作家の項目において、その生い立ちから作家として世に認められるまでのことがらと、晩年の仕事を論ずる部分に非常にこまやかな筆遣いが認められるのである。このような行きかたが平均的な叙述方法となっていたと言えよう。

さて、評論活動に次いで研究活動も盛んになった。しかし昭和40年代までは、学際的研究の必要が一般的にはそれほどには必要視されず、作家の一面のみが取り上げられた。作家自身の関心は広がりを持っているにもかかわらず、研究にあたってはその広がりが否定されて来た。思えばこれは奇異なことである。その後、学際的な研究にも視点がおかれるようになり、そのための必要から書誌学的研究が次第に台頭してきた。ただしそれは文献的書誌、年表・年譜の限りにおけるものである。

3 作家における他者の受容～読書家としての作家

* 本学社会学部教授

** 本学経済学部教授

ところで、作家の真実の姿は非常に立体的である。評価の高い作家には求道者の雰囲気がある。彼等はまた求道者であると同時に絶えず好奇心を抱いて新しいものを求める。それゆえ彼等の多くは、いわば縦の関係にある文学史に関心が深く、古典の愛好者である。そして更にその関心は横へ向けられ、仲間、文壇に対する興味をいだく。これは当然のことであるが、さらにその時代の外国文学にまで目を注ぐ。そうした営みの基本となるものは膨大な量の読書である。作家は偉大な読書人でもあった。彼等は外国文学、とくに西洋文学の移入に関する最大の担い手でもある。

4 大正期作家における他者受容 ～その一形態としての読書行動

明治の西洋型の高等教育をうけ、大正期に壮年期を過ごした知識人はほぼ上記のような読書態度を示したと考えられる。明治期政治小説の最大の研究者である柳田泉が、晩年、目が疲れるので昼は英書を夜は漢籍を読み、その合間に和書を見ると述べているのがその典型である。

このような過去の所産への遡及や外国文学の移入は明治期から行なわれて来た。これに一段とはずみがついたのが大正期である。大正期はそれが短い期間であったために、作家達はかえって明治期とは異なる新しさを際立たせている。大正期のほぼ全体を時代の先頭に立って進んだ作家は、古典と西洋文学という縦横の太い線上に作家的資質をクロスさせ、その地点から自らの創作を膨らませる。

5 読書家、芥川・荷風・露伴

このクロスを判然と持つ作家として芥川龍之介、永井荷風を考え、取り上げた。二人は作家としての本質は異なるが、共に大正という時代の申し子である。

5.1 芥川龍之介

大正期を代表する作家であり、その劇的な死が大正の終焉ともみられている芥川龍之介は、その読書歴が興味深い。漱石によって「鼻」が認められたことは周知の事実であるが、初めはその上手さが注目された。ついで博識が話題となった。だがその延長線上に出てくる問題とし

て、その独創性のなさ、特に筋を作る力の皆無であることが取りざたされた。研究者たちは彼の借用を次々と解明して行った。ただし彼におけるこの事実は、今日必ずしも否定的に評価されていない。

借用の歴然たる作品のみを遺したこの作家が、優れた作家とされるのは何によるのか。このことの解明の方が今後の課題となるのではなからうか。

ともかくも芥川は書物によって人生を学んだと明言している。そうした彼の読書歴は、借用作品の指摘をとおして相当明らかになっているが、なお詳細に追ってみる価値があるであろう。

5.2 永井荷風

永井荷風は「断腸亭日乗」を中心とする日誌自体の文学的価値がつとに認められている作家である。大正期に三十代、四十代という最盛期の大半を過ごした作家である。無論昭和期を大戦後まで生きぬき著作活動を続けた彼を、大正期の作家と限定することはできない。しかしその基本は大正時代における蓄積に負うているといえよう。たとえば第二次世界大戦の間じゅう、荷風自身によれば、戦火に追われ転々とする「老残の身」でありながら、若いときに親しんだフランスの文学作品を繰り返し読んでいる。このことから荷風の作家的基盤が大正期に置かれているということができよう。

5.3 幸田露伴

更に我々は幸田露伴にも注目する。露伴は他の二人よりも年長であるが、その最盛期は大正期にある。漢籍に親しみ、中国の稗史の面白さを識り、仏典を理解した。露伴のこの読書範囲、仏書と中国古典には、前記二人の作家の読書と重なる部分がある。前二者におけるそれらの著作の解釈について対照・評価する余地が出てくるとも考えられる。

6 芥川、荷風、露伴の読書編歴書誌の作成

既に手の内はお分かり頂いていると思われるが、我々は、上記の三人の読書遍歴を洗い、彼等における古典的教養、西洋文学の渉漁についてのデータを得る試みをここに展開する。彼等が日々、時代時代に興味を持ち、読書した著作

を書誌的に整理することで、その内面・作風の形成や、著作作品との関連をたずねるための基礎を求める。更には、当時どのような文芸思潮がもてはやされ、どのような外国文学が移入されていたかを知るようすがともなろう。

方法的には、彼等の日記、書簡、随筆等をとおして、その読書物を記録する。おことわりしておくが、私共は、作家の日記、書簡などから読書歴を簡単に探りうるものと思っているわけではない。作家の日記などはうそのかたまりだと極言する人もある。私共も、彼等らの記述のすべてが真実であるとは信じてはいない。そればかりか、通読したのか否かということについては、確認のしようのない場合が多い。また、そのタイトル名が記されている日誌の年月日とその読書の時期が一致していないことも少なくないであろう。そうしたことがあることは事実である。そうした認識は私共も持っている。

しかし上記のようなケースにあっても、作家がその著作について認識と関心を抱いていたことには違いがない。こうしたことから、この作業においては、すべて記録にあたいするものと

して採録した。

この書誌は、これを見る方々が、それぞれに重視しておられる、後一人か二人の大正期を中心に活躍した作家を加えて考えて下されば、陰影を持つものとなり、大正文学の全体像、大正作家の特質を浮き彫りにすることができるであろう。ちなみに、この作業の初期においては、上記の三人に加えて内田魯庵と岩野泡鳴についても同様のことを行うべく検討した。しかし余りにも膨大な作業となるので、割愛する。

7 付言

この共編は、赤瀬が文学関係の側面について、志保田が書誌的側面を中心とした表現面について責めを負っている。

本号を最初として、永井荷風に関する第一稿から順次掲載する。

当稿は、本研究所の傘下にある近代書誌に関する共同研究プロジェクトの昭和58—61年度の活動に基づいたものである。採録にあたって、山田伸枝氏（大阪樟蔭女子大学 図書館司書）、福広悦子氏、大村由美氏の協力を得たことに感謝する。

III 荷風の読書遍歴書誌

永井荷風の繙いた書物に就いては、すでに、その生涯を俯瞰しての考究も、なされている。

しかし、ここでは、日誌などによって、調べられる限り詳細に、荷風の読書の跡を辿ってみることを意図した。周知のように、荷風は偉大な読書人である。明治、大正、昭和を通して、その読書歴を見れば、フランス文学を中心としての文学の移入の状況、知識人の志向、内的風俗などが、つぶさにわかって来る。

比較文学的研究の立場から、重要と思われるものについては、注をつけた。

殊に、荷風の壮年の頃の、わが国の出版界の状況や、世界思潮の流れなど、様々のことの読み取れることを意図したものである。

凡 例

I 典拠

『荷風全集』第1巻(1962年)～第28巻(1965年)、補巻・第29巻(1974年) 岩波書店。

II 排列

- 1 年月順：日記類所記のものは日記年月による。日記以外においては、その読書対象作品を所記している当該の作品の初出の年月に基づく。
- 2 同月日内の排列順序：①漢字まじりの著者の五十音順、②カタカナで表わされた著者の五十音順、③アルファベット(原綴)で表わされた著者のアルファベット順とする。著作名は著者に続けて「」に入れて記す。

III 記載事項

1 読書関係事項

- .1 年月日：月不明のものは季節名を記載。日不明の場合は「不」と記載した。複数の月の内のいずれかに確定できない場合、例えば9月・10月の内のいずれかの場合「9/10」というように「/記号」を用いて表わした。
- .2 読書作品：読書作品について、荷風における記載の形に従って、著者・著作名を示す。ただし著者は西洋人に関しても、姓・名の順に記載。その場合姓の後に「」(コンマ)を記載。

2 典拠関係事項

- .1 巻・頁：当該読書作品を所載する『荷風全集』(上掲)の巻次と頁を「:」(コロ)で区切って示した。
- .2 荷風全集目次タイトル：当該記事を所収している荷風の著作のタイトルを記載した。『荷風全集』目次に依拠したので、同全集編者による編集タイトル(例えば「書簡」)である場合がある。直前の事項と完全に一致する場合は、「〃」(同上記号)を用い省略的に記した。

3 注

当方において必要とみなした限りで注(本項末尾所載)を記した。なお荷風の文中から抽出したものは「“ ”」(引用符)を用いて示した。

IV 記載法：転写を原則とする。

荷風の読書遍歴書誌 (1)

(明治)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
35. 6. 不	ゾラ, エミール「L'Oeuvre」 ¹⁾	18 : 260	ゾラ氏の「傑作」を読む
35. 7. 不	ゾラ, エミール「ラベートユーマン」	18 : 266	ゾラ氏の作 La Bête Humaine
36. 9. 不	ゾラ, エミール「L'Amoureuse Comédie」 ^{ラムラーズ} 「Les Contes à Ninon」 ^{レ コンテ ザ ニノン} 「La Confession de Claude」 ^{ラ コンファッション ド クロード} 「Thérèse Raquin」 ^{テレーズ ラカン}	18 : 233 18 : 234	エミール・ゾラと其の小説 〃
	「Les Rougon-Macquart」 ^{ルーゴン マツカール}	18 : 236	〃
	「La Fortune des Rougon」 ^ラ 「La Curée」 ^ラ 「Le Ventre de Paris」 「La Conquête de Plassans」 ^ラ 「La Faute de l'abbé Mouret」 ^ラ 「Son Excellence Eugène Rougon」 「L'Assommoir」 ^ラ ²⁾ 「Nana」 ^ラ 「Une Page d'Amour」 ^ラ 「Pot-Bouille」 ^ラ 「Au Bonheur des Dames」 ^ラ 「La Joie de Vivre」 ^ラ 「Germinal」 ^ラ 「L'Oeuvre」 ^ラ 「La Terre」 ^ラ 「Le Rêve」 ^ラ 「La Bête Humaine」 ^ラ	18 : 241 18 : 242	〃 〃
	「L'Argent」 ^ラ 「La Débâcle」 ^ラ 「Le Docteur Pascal」 ^ラ 「Les Trois Villes」 ^ラ 「Les Quatre Evangilles」 ^ラ		
36. 9. 不	ゾラ, エミール ^{3, 4)}	18 : 248	〃
36. 9. 不	ゾラ, エミール「Madeleine Fêrat」 「Nais Micoulin」	18 : 249	〃
	「Nouveaux Contes à Ninon」 ^ラ 「Le Capitaine Burle」 ^ラ 「Les Mystères de Marseille」 ^ラ 「La Voëu d'une morte」 ^ラ	18 : 250	〃
42. 2. 不	コッペイ	27 : 7	雑草園其四：アカデミーの内容
42. 2. 25	ゴルキー	27 : 20	〃 : レニエの詩と小説
42. 2. 25	ゴンクール, エドモンド	27 : 18	〃 : 〃 ⁵⁾
42. 2. 不	サルドウ	27 : 7	〃 : アカデミーの内容
42. 2. 不	シャトウブリアン, ルネ	27 : 7	〃 : 〃
42. 2. 不	ゾラ, エミール	27 : 8	〃 : 〃
42. 2. 25	ゾラ, エミール	27 : 18	〃 : レニエの詩と小説
42. 2. 不	ドウデュ, アルフォンス	27 : 8	〃 : アカデミーの内容
42. 2. 不	ドーデ, レオン「レ, ドゥー, エト ラント」 ⁶⁾	18 : 526	佛蘭西現代の小説家 ⁷⁾

(明治)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
42. 2. 不	フラピエー, レオン「田舎の女教師」	18 : 525	佛蘭西現代の小説家
42. 2. 不	フランス, アナートル「タイス」	18 : 528	〃
42. 2. 不	ブルーゼー, ポール	27 : 7	雑草園其四 : アカデミーの内容
42. 2. 不	ブールヂェー, ポール「コスモポリ ス」 ^{ル・デシツブル} 「門弟子」	18 : 530	佛蘭西現代の小説家
42. 2. 不	プレボー, マルセル「女の手紙」 「半処女」 ^{デミ・ヴィエールジェ}	18 : 527	〃
42. 2. 不	フローベル	27 : 8	雑草園其四 : アカデミーの内容
42. 2. 25	フローベル	27 : 20	〃 : 〃
42. 2. 不	マルグリット, ポール「新しき婦 人」 ⁸⁾	18 : 525 ~526	佛蘭西現代の小説家
42. 2. 不	マルグリット, ポール「砂上の足 跡」 ⁹⁾ 「長延く日」	18 : 526	〃
42. 2. 不	モーパッサン, ギユイ・ド「イヴェ ット嬢」 ⁹⁾ 「人心」 ^{ひとごころ}	18 : 527	〃
42. 2. 不	モリエール	27 : 8	雑草園其四 : アカデミーの内容
42. 2. 不	ユーゴー, ヴィクトル	27 : 7	〃 : 〃
42. 2. 不	ルメートル, フランセイズ	27 : 7	〃 : 〃
42. 2. 25	レニエ, アンリ・ド「ブレオー氏の 会合」 ¹⁰⁾ その他の10数冊	27 : 18	〃 : レニエの詩と小説
42. 2. 不	ロー, エドアール「道の中途」 ^{オー・ミリュール・デ・シユマン} 「無用の努力」 ^{イニユティル・エフオール}	18 : 531	佛蘭西現代の小説家
	「アネット嬢」 ^{ヴァンクール} 「勝利者」	18 : 532	〃
42. 2. 不	ロスタン, エドモンド	27 : 7	雑草園其四 : アカデミーの内容
42. 2. 不	ロチ, ピェール	27 : 7	〃 : 〃
42. 2. 不	ロッチ, ピェール「お菊夫人」, 「日 本の秋」 ^{みたび} 「お梅が三度の春」 ^{スバイ} 「氷島 の漁夫」 ^{スバイ} 「騎兵」 ^{スバイ} 「ラマンチョー」 ¹¹⁾	18 : 528	佛蘭西現代の小説家
42. 3. 15	ゾラ, エミール ¹²⁾	18 : 275	モーパッサンの石像を拝す
42. 3. 15	モーパッサン, ギイ・ド「Inutile Beauté (みのらぬ花)」 ^{スバイ} 「紀行水の 上」	18 : 276	〃
42. 5. 不	バレース, モーレス	27 : 21	雑草園其四 : モーレス, バレース
42. 5. 不	バレース, モーレス「ベレニス の庭」 ¹³⁾ 「血と, 歓楽と, 死」 ¹³⁾	27 : 24	〃 : 〃
42. 5. 不	ロチ, ピェール	27 : 22	〃 : 〃
42. 6. 不	イプセン	29 : 11	拾遺 : 談話 : 最近の仏蘭西劇
42. 6. 不	Brieux「シモン」	29 : 14	〃 : 〃 : 〃
42. 6. 不	Capus, アルフレッド「射られた鳥」 ^{ネアツー・ブレッセー}	29 : 14	〃 : 〃 : 〃
42. 6. 不	Hervieu, Paul「迷ひの室」 ^{ラビラント} 「焰の道」 ^{ケールフヴランボー}	29 : 11	〃 : 〃 : 〃

(明治)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
42. 8. 不	ゾラ, エミール「巴里」	27:28	雑草園其四: 別に何とも思はなかった
42. 8. 不	モリエール	27:28	〃 : 〃
42. 9. 9	三木露風「廢園」「内心」「木の葉と恋人」「接吻の後に」	29:43	拾遺: 書簡
42. 9. 不	森鷗外	15:229	鷗外先生
42. 9. 9	ヴェルレーヌ, ポール・マリー	29:44	拾遺: 書簡
42. 9. 9	タイヤード	29:45	〃 : 〃
42. 9. 9	ドラリュ	29:44	〃 : 〃
42. 9. 9	ノアイエ ¹⁴⁾	29:44	〃 : 〃
42. 9. 9	レニエー, アンリ・ド	29:45	〃 : 〃
42. 9. 9	ロラン, ロマン	29:45	〃 : 〃
42. 10. 不	成島柳北 ¹⁵⁾	27:30	雑草園其四: 我が思想の変遷
42. 10. 不	広津柳浪	27:30	〃 : 〃
42. 10. 不	森鷗外「水沫集」	27:31	〃 : 〃
42. 10. 不	ヴェルレーヌ, ポール・マリー	27:35	〃 : 巴里の寄席芸人
42. 10. 不	エリオット, ジョージ	27:31	〃 : 我が思想の変遷
42. 10. 不	ゴルキー	27:31	〃 : 〃
42. 10. 不	ゾラ, エミール ¹⁶⁾	27:31 ~33	〃 : 〃
42. 10. 不	ツルゲーネフ	27:32	〃 : 〃
42. 10. 不	ニーチェ, フリードリッヒ	27:31	〃 : 〃
42. 10. 不	プーシキン	27:32	〃 : 〃
42. 10. 不	ホーソン, ナザニエル	27:31	〃 : 〃
42. 10. 不	ボードレール ¹⁷⁾	27:35	〃 : 巴里の寄席芸人
42. 10. 不	ミュッセ, アルフレッド	27:32	〃 : 我が思想の変遷
42. 10. 不	モーパッサン, ギュイ・ド	27:32	〃 : 〃
42. 10. 不	モレアス, ジャン	27:34	〃 : 〃
42. 10. 不	ラマルチーン, アルフォンズ・ド	27:32	〃 : 〃
42. 10. 不	レニエー, アンリ・ド	27:34	〃 : 〃
42. 10. 不	ロチ, ピエール	27:32	〃 : 〃
42. 11. 不	田山花袋「妻」	18:546	小説壇の現在及び佛国小説の近事
42. 11. 不	コッペ, フランソワ	29:18	拾遺: 談話: 仏蘭西の追懐
42. 11. 不	ボードレール「二重の室」 ¹⁸⁾	29:18	〃 : 〃 : 〃
42. 11. 不	ルソー, ジャン・ジャック	29:18	〃 : 〃 : 〃
43. 不. 不	「Mercure de France」 ¹⁹⁾	28:50	参考篇: 「三田文学」抄
43. 2. 13	ボードレール	28:570	補遺: アンケート: 文士と洋行
43. 2. 不	ルペルチェ, エドモン ²⁰⁾	18:552	ベルレーヌの伝記を読みて
43. 4. 不	北原白秋「片恋」	13:15	紅茶の後: 片恋
43. 4. 不	森鷗外「渦巻」	13:6	〃 : 三田文学の発刊

(明治)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
43. 4. 不	ヴェルレエヌ, ポール・マリー 「Romances sans Paroles (詞なき 歌)」	13 : 6	紅茶の後：三田文学の発刊
43. 4. 不	スウザ, ロベエル・ド「俗謡と感傷 的抒情詩」 ²¹⁾	13 : 15	〃 : 片恋
43. 4. 不	モンパッサン, ギュイ・ド	13 : 19	〃 : 五月
43. 4. 不	Chateaubriand, ルネ「Rene」	13 : 7	〃 : 三田文学の発刊
43. 4. 不	Fort, Paul	13 : 16	〃 : 片恋
43. 4. 不	Laforgue, Jules	13 : 16	〃 : 〃
43. 4. 不	Maeterlink, Maurice	13 : 16	〃 : 〃 ²²⁾
43. 4. 不	Mauclair, Camille	13 : 16	〃 : 〃
43. 4. 不	Moréas, Jean	13 : 16	〃 : 〃
43. 5. 不	森鷗外「水沫集」	27 : 45	雑草園其四：十七八の頃
43. 5. 不	エリオット, ジョージ ²³⁾	27 : 45	〃 : 〃
43. 5. 不	ゴルキー	27 : 47	〃 : 〃
43. 5. 不	ゾラ, エミール ²⁴⁾	27 : 45	〃 : 〃
43. 5. 不	ニーチュ, フリードリッヒ	27 : 47	〃 : 〃
43. 5. 不	フロオベル	13 : 28	紅茶の後：鑄掛松
43. 5. 不	ボオドレエル	13 : 24	〃 : 倦怠
43. 5. 不	ホーソン, ナザニエル ²⁵⁾	27 : 45	雑草園其四：十七八の頃
43. 5. 不	Sardou, Victorian	13 : 26	紅茶の後：鑄掛松
43. 5. 不	Scribe, Eugène	13 : 26	〃 : 〃
43. 6. 不	葵山 ^{キザン}	13 : 32	〃 : 霊廟
43. 6. 不	湖山 ^{コザン}	13 : 32	〃 : 〃
43. 6. 不	渚山 ^{シヨザン}	13 : 32	〃 : 〃
43. 6. 不	ゴオチエエ, テオフィル	13 : 32	〃 : 〃
43. 6. 不	ゾラ, エミール	13 : 32	〃 : 〃
43. 6. 不	トルストイ	13 : 32	〃 : 〃
43. 6. 不	レニエエ, アンリイ・ド「噴水の都 (La Cité des Eaux)」	13 : 29	〃 : 〃
43. 7. 不	小泉八雲 ²⁷⁾ 「Kwaidan ou Histoire et Etudes de choses étranges」 ²⁸⁾	28 : 507	参考篇：「三田文学」抄
43. 7. 不	Bataille, Henry「La Vierge folle (狂処女)」「Le songe d'un soir d'amour (恋の夜の夢)」	28 : 511	〃 : 〃
43. 7. 不	Bazin, René「La Barrière (柵)」	28 : 511	〃 : 〃
43. 7. 不	Bourget, Paul「La Dame qui a perdu son peintre (畫工を失ひ たる婦人)」	28 : 511	〃 : 〃

(明治)	読書作品(著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
43. 7. 不	Comert, M. 「Les Grimaces de l'amour」	28 : 509	参考篇 : 「三田文学」抄
43. 7. 不	Dacre, Fernard 「Traîneurs de Sabres」	28 : 509	〃 : 〃
43. 7. 不	Daudet, Léon 「Le Bonheur l'être riche」	28 : 509	〃 : 〃
43. 7. 不	Goncourt, Edmond 「La Manette Salomon」	28 : 509	〃 : 〃
43. 7. 不	Guesviller, G. 「L'Idole」	28 : 509	〃 : 〃
43. 7. 不	Gyp 「LA'moureux de Line」	28 : 509	〃 : 〃
43. 7. 不	Moréas, Jean 「Les Syrtes」 「Les Canti lènes」 「Sylves」 「Le Pèlerin Passionné」 「Eriphyle」	28 : 508	〃 : 〃
43. 7. 不	Rosny aîné, J. -H. 「La Vague rouge (赤き波)」	28 : 508	〃 : 〃
43. 7. 不	Verhaeren, Emile 「Les Rythmes souverains」	28 : 507	〃 : 〃
43. 7. 不	Vogüé, Melchior de 「Le Roman russe」 「Voyages au pays du Passé: Syrie, Palestine, Mont-Athos」 [他]	28 : 510 ~511	〃 : 〃
43. 9. 不	泉鏡花 「三味線堀」	28 : 512	〃 : 〃
43. 9. 不	小栗風葉 「五反甫」	13 : 45	紅茶の後 : 九月
43. 9. 不	木下杢太郎 「京阪見聞記」	28 : 513	参考篇 : 「三田文学」抄
43. 9. 不	薄田泣菫 「橘白夢の死」	28 : 512	〃 : 〃
43. 9. 不	長田秀雄 「歓楽の鬼」	28 : 512	〃 : 〃
43. 9. 不	ヴェルハレン	13 : 51	紅茶の後 : 絶望なるかな
43. 9. 不	ヴェルレエヌ	13 : 56	〃 : 希望
43. 9. 不	ゴオイェイ	13 : 49	〃 : 流竄の楽士 ²⁹⁾
43. 9. 不	ブルヂェ, ポウル 「島人」 ³⁰⁾	28 : 513	参考篇 : 「三田文学」抄
43. 9. 不	ホフマンスタアル	13 : 51	紅茶の後 : 絶望なるかな
43. 9. 不	メエテルリンク	13 : 51	〃 : 〃
43. 9. 不	ラヴダン, アンリ 「波のたはむれ」 ³¹⁾	28 : 513	参考篇 : 「三田文学」抄
43. 9. 不	リィル, コント・ド	13 : 49	紅茶の後 : 流竄の楽士
43. 10. 不	シェキスピーア ³²⁾	27 : 58	雑草園其四 : 明治座の九月狂言
43. 11. 不	坪内逍遙 「桐一葉」	13 : 57	紅茶の後 : 歌舞伎座の棧敷にて
43. 11. 27	イブセン	27 : 65	雑草園其四 : 自己の性情と態度
43. 11. 27	ダヌンチオ	27 : 65	〃 : 〃
43. 11. 27	ツルゲネフ	27 : 65	〃 : 〃
43. 11. 不	デュマ 「椿姫」 ³³⁾	13 : 60	紅茶の後 : 歌舞伎座の棧敷にて

(明治) (大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
43. 11. 不	トルストイ	27 : 65	雑草園其四：自己の性情と態度
43. 11. 不	ユウゴオ, ヴィクトル「エルナニ」	13 : 60	紅茶の後：歌舞伎座の棧敷にて ³⁴⁾
43. 12. 不	イブセン	13 : 69	// : 自由劇場の帰り
43. 12. 不	ゴルキィ	13 : 69	// : //
43. 12. 不	ゴルキィ「夜の宿」	13 : 67	// : //
43. 12. 不	チエホフ	13 : 69	// : //
43. 12. 不	モオパッサン, ギュイ・ド	13 : 69	// : //
44. 1. 不	マラルメ	13 : 73	// : 新年
44. 5. 不	ロチ, ピェール「遠遊」「お梅が晩年 (Troisième Jeunesse de Madame Prune)」「お菊さん (Madame Chrysanthème)」「日本の秋 (Ja- poneries d'Automne)」	18 : 558	仏蘭西現代の小説家其他：ピェール ロチと日本の風景 ³⁵⁾
44. 7. 不	Bordeaux, Henri	13 : 104	紅茶の後：銀座
44. 8. 不	伊藤橋塘 <small>きょうとう はなのはるときにあいまき</small> 「花春時相政」	13 : 125	// : 蟲干
44. 8. 不	假名垣魯文「いろは新聞」	13 : 126	// : //
44. 8. 不	金子佐平「東京新繁昌記」	13 : 122	// : //
44. 8. 不	「新橋花譜」	13 : 125	// : //
44. 8. 不	滝沢馬琴「船蟲」 ³⁶⁾	13 : 127	// : //
44. 8. 不	田辺南麟「高橋お伝」	13 : 125	// : //
44. 8. 不	寺門静軒「江戸繁昌記」	13 : 122	// : //
44. 8. 不	中村鉄三郎「新橋芸奴評判記」 <small>げいしや</small>	13 : 125	// : //
44. 8. 不	成島柳北「柳橋新誌」 ³⁷⁾	13 : 122	// : //
44. 8. 不	野崎左文「東京粹書」 <small>すいしよ</small>	13 : 125	// : //
44. 8. 不	古河黙阿弥「霜夜鐘十時辻占」 <small>しもよのかねじゆうじのつじうらない</small>	13 : 125	// : //
44. 8. 不	「明治芸人鑑」	13 : 125	// : //
44. 8. 不	「夜嵐お絹」	13 : 125	// : //
44. 8. 不	ギョオ「社会学上より見たる芸術」	13 : 128	// : //
44. 8. 不	ボオドレエル「Fleurs du Mal」	13 : 128	// : //
44. 9. 30	谷崎潤一郎「象」「刺青」「少年」「幫 間」「麒麟」	13 : 149 ~158	雑草園其一：谷崎潤一郎氏の作品 ³⁸⁾
44. 9. 不	ボオドレエル	13 : 132	紅茶の後：海洋の旅
45. 4. 不	モオリス, ウイリアム	13 : 213	妾宅
45. 4. 不	ラスキン, ジョン	13 : 213	//
45. 4. 不	Schuob, Marcel	13 : 199	//
元 9. 1	生田葵山「寒き女」	14 : 348	雑草園其三：文反古
元 9. 1	江南文三「逢引」	14 : 349	// : //
元 9. 1	尾崎紅葉	14 : 350	// : //
元 9. 1	川上眉山	14 : 350	// : //
元 9. 1	高山樗牛	14 : 350	// : //

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
元 9. 1	馬場孤蝶「屈辱」	14 : 349	雑草園其三 : 文反古
元 9. 1	三木露風	14 : 348	〃 : 〃
元 9. 1	水上瀧太郎「信次の身の上」	14 : 349	〃 : 〃
元 9. 1	森鷗外「翻訳・板ばさみ」	14 : 349	〃 : 〃
元 9. 1	山崎紫紅「着物」	14 : 348	〃 : 〃
元 9. 1	ヴェルレーヌ, ポール マリー	14 : 348	〃 : 〃
元 9/10月	上田敏「渦巻」	26 : 122	〃 : 文芸読むがまま
元 9/10月	「巖上三女」	26 : 120	〃 : 〃
元 9/10月	喜多川歌麿「絵本百千鳥」「絵本蟲撰」	26 : 119	〃 : 〃
元 9/10月	森鷗外「みれん」	26 : 123	〃 : 〃
元 9/10月	森鷗外「我一幕物」	26 : 132	〃 : 〃
元 9/10月	与謝野鉄幹「埋木」	26 : 123	〃 : 〃
元 9/10月	サマン, アルベエル「クザンチス」	26 : 124	〃 : 〃
元 9/10月	アンドレエフ「心」 ³⁹⁾	26 : 123	〃 : 〃
元 9/10月	アンデルセン, ハンス クリスチャン「即興詩人」 ⁴⁰⁾	26 : 123	〃 : 〃
元 9/10月	ヴェルハアレン, エミル「Les Blés Mourants (麦秋)」	26 : 135	〃 : 〃
元 9/10月	ヴェルレーヌ, ポール「Epigrammes」	26 : 119	〃 : 〃
元 9/10月	ヴェルレーヌ, ポール「詩の法」	26 : 129	〃 : 〃
元 9/10月	ヴェルレーヌ, ポール「La Bonne Chanson」	26 : 130	〃 : 〃
元 9/10月	グウルモン, レミイ・ド「Le Livre des Masques (仮面の差)」	26 : 126	〃 : 〃
元 9/10月	ゾラ, エミール「夢」	26 : 131	〃 : 〃
元 9/10月	ダンヌンチオ「La Chimera (空想)」「Poema paradisiaco」「Elegie romane」「Intermezzo di Rime」「Canto novo (新しき歌)」	26 : 120	〃 : 〃
元 9/10月	ダンヌンチオ ⁴¹⁾	26 : 120	〃 : 〃
元 9/10月	メエテルリンク, モーリス「アリアン」 ⁴²⁾	26 : 133	〃 : 〃
元 9/10月	ユウゴオ, ヴィクトル「鐘楼守」	26 : 131	〃 : 〃
元 9/10月	レニエー, アンリ ド「Poèmes」「Les Médailles d'Argile (土製の賞牌)」「Les Jeux rustiques et divins (神と田園の戯れ)」「Premiers Poèmes」「La Sandale Ailée」	26 : 127	〃 : 〃

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル		
	(翼ある鞋)」「La Cité des Eaux (水の都)」「La Miroir des Heures (時間の鏡)」「L'Amphisbène」「La Canne de Jaspe (瑪瑙の杖)」「La Peur de l'Amour (恋の恐怖)」「Le Passé Vivant (生きてる昔)」「Les Rencontres de M. de Bréot (ブレオーの会見)」「Les Vacances d'un Jeune homme sage (おとなしき青年の休暇)」 ⁴³⁾	26 : 128	雑草園其三	文芸読むがまま	
	「Le Mariage de Minuit (夜半の結婚)」「Le Bon Plaisir (好き戯れ)」「Les Amants Singuliers (不可思議なる恋人)」「Le Trèfle blanc (白きクロバアの葉)」「La Double Maitresse (二重の恋人)」「L'Amphisbène (両頭の蛇)」「La Couleur du Temps (時の色)」「La Flambée (火炎)」「Contes à Soimême (我自ら我に語る話)」	26 : 135	〃	:	〃
		26 : 136	〃	:	〃
元 9/10月	レニエー, アンリ ド「楽しき日」 ⁴⁴⁾	26 : 140	〃	:	〃
元 9/10月	ロオダンバック, Georges「Les Vies Encloses (閑居)」「La Jeunesse Blanche (清き青春)」「La Mer Éléante (佳麗なる海)」「L'Hiver Mondain (冬の交際場裏)」「Le Règne du Silence (沈黙の国)」「Le Miroir du Ciel Natal (故里の空の鏡)」「Les Tristesses (悲哀)」「廢市の鐘」	26 : 130	〃	:	〃
元 9/10月	Baillière, Paul「Poètes Lyriques d'Italie et d'Espagne (西班牙及伊太利亜の抒情詩人)」	26 : 122	〃	:	〃
元 9/10月	Berton, Henry「Henri de Régnier, Le Poète et le Romancier」	26 : 129	〃	:	〃
元 9/10月	Cazals, F. A. & Rouge, Gustave Le「Les Derniers Jours de Paul Verlaine (ポオル・ヴェルレエヌの晩年)」	26 : 119	〃	:	〃
元 9/10	Pellissier, Georges「現代文学の趨	26 : 129	〃	:	〃

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
	勢]		
元 9/10	Regnier, Henri de 「La Sandale Ailée」	26 : 124	雑草園其三：文芸読むがまま
元 9/10	Verdi 「Rigoletto」	26 : 122	〃 : 〃
2. 1. 不	ゴングール, エドモンド ド	14 : 12	江戸芸術論：浮世絵の鑑賞
2. 1. 不	ヴェルハアレン	14 : 8 ~12	〃 : 〃
2. 1. 不	宮武外骨「筆禍史」	14 : 5	〃 : 〃
2. 3. 不	「水野様伝記」	25 : 158	書簡集
2. 6. 不	あけら かんこう 朱楽菅江	14 : 35	江戸芸術論：浮世絵の山水畫と江戸名所
2. 6. 不	一立斎広重「江戸土産」「名所図会」	14 : 40	〃 : 〃
2. 6. 不	葛飾北斎 <small>こうと</small> 「江都勝景一覽」 <small>あそび</small> 「東都遊」 やまふくやま 「山復山」「隅田川兩岸一覽」	14 : 36	〃 : 〃
2. 6. 不	からころもきつしゆう 唐衣橘洲	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	あづまからげ 北尾重政「吾妻袂」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	北尾政美「江戸名所鑑」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	すずめ ももちどり むし 喜多川歌麿「江戸爵」「百千鳥」「蟲 えらみ 撰」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	「狂歌集銀世界」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	きようげつぼう 「狂歌集狂月望」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	鈴木春信「続江戸土産」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	鳥居清長「物見ヶ岡」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	西村重長「江戸土産」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	菱川師宣「狂歌旅枕」	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	よものあから 四方赤良	14 : 35	〃 : 〃
2. 6. 不	ゴングウル, エドモンド・ド「歌麿 伝」 ⁴⁵⁾	14 : 42	〃 : 〃
2. 6. 不	フェノロサ, アーネスト	14 : 42	〃 : 〃
2. 6. 不	ペルヂンスキィ ⁴⁶⁾	14 : 49	〃 : 〃
2. 6. 不	Tei-san「美術史」	14 : 50	〃 : 〃
2. 7. 不	安藤広重「江戸土産」「狂歌江戸名 所図会」	14 : 164	江戸芸術論異文：浮世絵の山水畫と江戸名所
2. 7. 不	飯島虚心「日本絵類考」	14 : 159	〃 : 〃
2. 7. 不	葛飾北斎「江都勝景一覽」「東都遊」 「隅田川兩岸一覽」	14 : 160	〃 : 〃
2. 7. 不	斎藤長秋「江戸名所図会」	14 : 159	〃 : 〃
2. 7. 不	瀧沢馬琴「里見八犬伝」	14 : 159	〃 : 〃
2. 7. 不	宮武外骨編「此花」	14 : 159	〃 : 〃

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
2. 7. 不	ゴンクール, エドモンド・ド「歌麿伝」	14:168	江戸芸術論異文:浮世絵の山水畫と江戸名所
2. 7. 不	ゴンクール, エドモンド・ド「北斎伝」	14:174	〃 : 〃
2. 7. 不	フェノロサ, アーネスト「明治31年小林文七氏主催浮世絵展覧会出品目録説明書」	14:167	〃 : 〃
2. 7. 不	ペルヂンスキー	14:157	〃 : 〃
2. 7. 不	Tei-san「Notes sur l'art japonais」	14:178	〃 : 〃
2. 8. 17	鈴木鼓村「日本音楽の話」	13:226	大窪だより
2. 8. 不	徳富蘆花「不如婦」	13:182	雑草園其一: 厠の窓
2. 8. 不	森鷗外「灰燼」「新聞国」	13:180	〃 : 〃
2. 8. 13	マラルメ, ステファン「秋の嘆き」	13:224	大窪だより
2. 8. 22	ロット, エドアアル「剣と冠 (Le Glaive et le Bandeau)」	13:230	〃
2. 8. 不	Pergaud, Louis ⁴⁷⁾	13:185	雑草園其一: 厠の窓
2. 9. 不	「青本年表」	14:185	江戸芸術論異文:ゴンクールの歌麿伝
2. 9. 不	「折焚柴」 ⁴⁸⁾	13:236	大窪だより
2. 9. 不	飯島半十郎「葛飾北斎伝」	14:77	江戸芸術論:ゴンクールの歌麿及北斎伝
2. 9. 16	太田蜀山「奴唄」 ^{やつこだこ}	13:240	大窪だより
2. 9. 6	荻生徂来「奈留可志」 ^{なるべし}	13:236	〃
2. 9. 不	関根只誠「著名人忌辰録」	14:184	江戸芸術論異文:ゴンクールの歌麿伝
2. 9. 不	鳥山石燕「絵本百鬼夜行」	14:184	〃 : 〃
2. 9. 不	「日本書畫人名辞書」	14:184 185	〃 : 〃
2. 9. 6	松平定信「花月草紙」	13:236	大窪だより
2. 9. 不	ゴンクール, エドモンド・ド「18世紀日本美術」	14:68	江戸芸術論:ゴンクールの歌麿及北斎伝
2. 9. 不	ゴンクール, エドモンド・ド「歌麿伝」	14:181 ~202	江戸芸術論異文:ゴンクールの歌麿伝
2. 9. 不	ゴンクール, エドモンド・ド「歌麿伝」「北斎伝」	14:63 ~79	江戸芸術論:ゴンクールの歌麿及北斎伝
2. 9. 不	フェノロサ, アーネスト「明治31年小林文七氏主催浮世絵展覧会出品目録説明書」	14:285	江戸芸術論異文:ゴンクールの歌麿伝
2. 9. 不	Tei-san「日本美術研究」	14:182	〃 : 〃
2. 10. 不	葛飾北斎「北斎慢画」	14:207	江戸芸術論異文:欧人の観たる葛飾北斎

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
2. 10. 不	葛飾北斎「略畫指南」	14 : 210	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	式亭三馬	14 : 56	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	式亭三馬	14 : 207	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	十返舎一九	14 : 56	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	十返舎一九「東海道中膝栗毛」	14 : 57	〃 : 〃
2. 10. 不	十返舎一九	14 : 207	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	藤岡作太郎「近世絵画史」	14 : 211	〃 : 〃
2. 10. 不	ゴンクウル, エドモンド ド「北斎伝」	14 : 53	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	ゴンクウル, エドモンド ド「北斎」	14 : 203	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	ゴンス, ルイ「日本美術」	14 : 53	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	ゴンス, ルイ「日本美術 (L'Art japonais)」	14 : 205	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	テイザン「日本美術論」	14 : 57	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	ペルヂンスキ「北斎」	14 : 53	〃 : 〃
2. 10. 不	ペルヂンスキ「北斎」	14 : 203	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	ホルムス, C. J.「北斎」	14 : 53	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	ホルムス, C. J.「漫画」	14 : 60	〃 : 〃
2. 10. 不	ホルムス, C. J.「北斎」	14 : 203	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	ルヴォン「北斎研究」	14 : 53	江戸芸術論：泰西人の見たる葛飾北斎
2. 10. 不	ルヴォン「北斎研究 (Etude sur Hokusai)」	14 : 203	江戸芸術論異文：欧人の観たる葛飾北斎
2. 10. 不	Tei-san「日本美術研究」	14 : 203	〃 : 〃
2. 12. 不	永井禾原 (久一郎)「来青閣集」 ⁴⁹⁾	25 : 160	書簡集
2. 19. 不	Régnier, Henri de「Plateau de Laque (漆の盆)」	13 : 261	大窪だより
3. 1. 不	歌川豊国画「時世粧」 <small>いまよすがた</small>	14 : 22	江戸芸術論：鈴木春信の錦絵

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
3. 1. 不	山東京伝「狂歌五十人一首」	14 : 277	断腸亭雑稟：矢立のちび筆
3. 1. 不	秀松軒編「松の葉」	14 : 21	江戸芸術論：鈴木春信の錦絵
3. 1. 不	「 <small>そのはちぶししゆう</small> 蘭八節集」	14 : 21	〃 : 〃
3. 1. 不	徳田秋声	27 : 71	雑草園其四：爐辺にて
3. 1. 不	夏目漱石	27 : 71	〃 : 〃
3. 1. 不	水上瀧太郎「良縁」	27 : 72	〃 : 〃
3. 1. 不	森鷗外	27 : 71	〃 : 〃
3. 1. 不	ヴェルハアレン	14 : 276	断腸亭雑稟：矢立のちび筆
3. 1. 不	ジイドリッツ	14 : 29	江戸芸術論：鈴木春信の錦絵
3. 1. 不	シェイクスピア, ウィリアム「ハムレット」	14 : 275	断腸亭雑稟：矢立のちび筆
3. 1. 不	ダンヌンチオ	14 : 275	〃 : 〃
3. 1. 不	フェノロサ, アーネスト	14 : ²⁸ 29	江戸芸術論：鈴木春信の錦絵
3. 1. 不	ペルヂンスキィ	14 : 29	〃 : 〃
3. 1. 不	マアテルリンク, モーリス「Pelléas et Mélisande」	14 : 19	〃 : 〃
3. 1. 不	マリネッチ	14 : 277	断腸亭雑稟：矢立のちび筆
3. 1. 不	ロチ, ピエール	14 : ²⁷⁴ 275	〃 : 〃
3. 2. 22	初山庭後「遅日」	13 : 268	大窪だより
3. 2. 不	「ルバイヤット」片野文吉訳	26 : 438	序跋其他：ルバイヤット序
3. 2. 不	Seidlitz, W. von 「A History of Japanese Colour-Prints (日本彩色板畫史)」	14 : ²¹ 93	江戸芸術論：欧米人の浮世絵研究
3. 3. 不	山東京伝「小紋新法」	26 : 418	断片
3. 5. 22	有島生馬 <small>あやぶ</small> 「危い東京 <small>ほり</small> の濠」	13 : 286	大窪だより
3. 5. 不	坪内逍遥「梨園の落葉」	14 : 143	江戸芸術論：江戸演劇の特徴
3. 5. 不	森鷗外「月草」	14 : 143	〃 : 〃
3. 5. 不	森鷗外「舊劇の未来」	14 : 152	〃 : 〃
3. 5. 18	ゴオルチェエ, ポオル「諷刺畫々論」	13 : 285	大窪だより
3. 5. 不	ジェイクスピア, ウィリアム「ラシーヌ」	14 : 149	江戸芸術論：江戸演劇の特徴
3. 5. 18	マンユ, エミル「都市美論」 ⁵⁰⁾	13 : 285	大窪だより
3. 6. 不	安藤広重 (三世)「東京横浜名所一覽図」	14 : 126	江戸芸術論：衰頽期の浮世絵
3. 6. 不	歌川国直「美人今様姿」	14 : 121	〃 : 〃
3. 6. 不	歌川国芳「東都名所 <small>いきうつしひやくめんそう</small> 」「生写百面相」	14 : 117	〃 : 〃
3. 6. 不	歌川豊国「時勢粧 <small>いまようすがた</small> 」	14 : 121	〃 : 〃
3. 6. 不	漆山又四郎「浮世絵年表」	14 : 123	〃 : 〃
3. 6. 12	式亭三馬 <small>ぎじよう</small> 「戯場訓蒙図彙」	13 : 288	大窪だより
3. 6. 不	昇齋一景「東京名所三十六戯撰 <small>ぎせん</small> 」	14 : 126	江戸芸術論：衰頽期の浮世絵

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
3. 6. 不	関根金四郎「浮世畫人伝」	14 : 129	江戸芸術論：衰頽期の浮世絵
3. 6. 不	為永春水 ⁵¹⁾ 「小説梅暦」「辰巳の園」 「梅見船」等幾十冊	14 : 119	〃 : 〃
3. 6. 不	月岡芳年「風俗三十二相」	14 : 128	〃 : 〃
3. 6. 不	芳虎「東都八景」	14 : 126	〃 : 〃
3. 6. 不	柳亭種彦「小説田舎源氏」	14 : 116	〃 : 〃
3. 6. 不	Migeon, Gaston 「Art et Décoration, février 1914」	14 : 117 ~118	〃 : 〃
3. 6. 不	Tei-san 「Notes sur l'art japonais」	14 : 115 ~116	〃 : 〃
3. 7. 不	歌川豊国「似貌絵本 俳優楽室通」 「戯子名所図会」「容貌写真俳優三 階興」「三戯場俳優三十二相」「役 者此手嘉志波」「俳優相貌鏡」 「垣下徒然草」 ⁵²⁾	14 : 103	〃 : 浮世絵と江戸演劇
3. 7. 不	勝川春草, 一筆斎文調「絵本舞台扇」 及び続編	14 : 101	〃 : 〃
3. 7. 不	北尾重政「戯場風俗栄家種」	14 : 103	〃 : 〃
3. 7. 不	山東京伝「骨董集」	14 : 96	〃 : 〃
3. 7. 不	山東京伝「狂歌五十人一首」	14 : 97	〃 : 〃
3. 7. 不	「ジョオ蒐集板畫目録」	14 : 100 ~101	〃 : 〃
3. 7. 不	鈴木春信「青摺美人合」「春の錦」	14 : 101	〃 : 〃
3. 7. 不	淡海三磨編「明和伎鑑」	14 : 97	〃 : 〃
3. 7. 不	手柄岡持「後は昔物語」	14 : 111	〃 : 〃
3. 7. 不	鳥居清信「四場居百人一首」	14 : 96	〃 : 〃
3. 7. 不	原武太夫「隣の疝氣」	14 : 111	〃 : 〃
3. 7. 不	菱川師宣「古今役者物語」	14 : 96	〃 : 〃
3. 7. 不	クルト「東州斎写楽論」	14 : 100	〃 : 〃
3. 7. 不	ゴンス	14 : 99	〃 : 〃
3. 7. 不	ザイトリッツ「日本板畫史」	14 : 99	〃 : 〃
3. 8. 不	宝井其角「類柑子」	13 : 279	日和下駄：第一日和下駄
3. 8. 不	アレエ, アンドレエ「En Flanant」	13 : 301	〃 : 〃
3. 8. 不	ポルドオ, アンリィ	13 : 301	〃 : 〃
3. 10. 不	「(嘉永板)江戸切図」 ⁵³⁾	13 : 316	〃 : 第四地図
3. 10. 不	大田南畝編「狂歌才蔵集」夏の巻	13 : 318	〃 : 〃
3. 10. 不	成島柳北「柳橋新誌」	13 : 313	〃 : 第三樹
3. 11. 不	ゴンス	13 : 328	〃 : 第五寺
3. 11. 不	ミジョン	13 : 328	〃 : 〃
3. 12. 不	江見水蔭「泥水清水」	13 : 334	〃 : 第六水
3. 12. 不	北原白秋	13 : 334	〃 : 〃

(大正)	読書作品 (著者・著作名)	巻・頁	荷風全集目次タイトル
3. 12. 不	木下杢太郎	13 : 334	日和下駄：第六水
3. 12. 不	戸田茂睡 <small>むらさきのひともと</small> 「紫の一本」	13 : 339	〃 : 〃
3. 12. 不	ドオデェ, アルフォンス「ラ・ニベ ルネエズ」	13 : 334	〃 : 〃
3. 12. 不	マンユ, エミル「都市美論」	13 : 331	〃 : 〃
4. 不. 不	子周編「(安永三年板) 俳諧七節集」	26 : 539	序跋其他：江戸庵句集序異文
4. 不. 不	夏目成美「成美が家集」	26 : 539	〃 : 〃
4. 不. 不	初山庭後「江戸庵句集」	26 : 539	〃 : 〃
4. 臘月. 不	平賀源内「風流志道軒」	14 : 241	断腸亭雑藁：築地草
4. 1. 不	式亭三馬「浮世床」	13 : 345	日和下駄：第七路地
4. 2. 不	木下杢太郎	13 : 353	〃 : 第八閑地
4. 2. 不	宝井其角「類柑子」	13 : 351	〃 : 〃
4. 2. 不	戸川秋骨「そのままの記」	13 : 359	〃 : 〃
4. 2. 不	古河黙阿弥「筆屋幸兵衛」「明石島 藏」	13 : 353	〃 : 〃
4. 2. 不	吉村繁俊「河竹黙阿弥」	26 : 254	柏子木物語其他：仏蘭西の女優
4. 2. 不	フェノロサ, アーネスト「日本及び 支那の美術」 <small>えど そうがの くだいぜん</small>	28 : 559	補遺：随筆・評論：江戸錦絵の時価 と室内装飾
4. 3. 不	「江戸惣鹿子大全」	13 : 365	日和下駄：第九崖
4. 3. 不	太田蜀山人「東豊山十五景」の狂歌	13 : 371	〃 : 〃
4. 3. 不	戸田茂睡 <small>むらさきのひともと</small> 「紫の一本」	13 : 365	〃 : 〃
4. 3. 不	森鷗外 <small>しがらみぞうし</small> 「柵草紙」	13 : 368	〃 : 〃
4. 5. 不	式亭三馬「浮世風呂」	25 : 174	書簡集
4. 6. 不	永井荷風, 後藤末雄「モオパッサン」	26 : 503	序跋其他：モオパッサン序
4. 9. 不	夏目漱石「吾輩は猫である」	13 : 160	雑草園其一：初山庭後
4. 9. 不	初山庭後「遅日」	13 : 160	〃 : 〃
4. 10. 不	久米秀治「その話」	26 : 143	雑草園其三：久米秀治氏の「その話」
4. 11. 不	「心づくし」	25 : 181	書簡集
4. 11. 9	久保田万太郎「下町情話」「浅草」 「雪」「今戸橋」	13 : 163	紅茶の後：浅草の久保田君に呈す
4. 11. 不	増田廉吉「驚き」	26 : 143	雑草園其三：増田廉吉君新作「驚き」 を読む
4. 11. 不	増田廉吉「袖が崎」	26 : 148	〃 : 〃
4. 11. 9	ロチ, ピエール	13 : 167	雑草園其一：浅草の久保田君に呈す
4. 初冬	夏目成美「成美が家集」	26 : 439	序跋其他：江戸庵句集序
4. 初冬	「(安永3年版) 俳諧七部集」	26 : 439	〃 : 〃
4. 初冬	初山庭後「江戸庵句集」	26 : 439	〃 : 〃

注

- 1) 「Rougon-Macquart」叢書の中のもの。Vizetelly氏により、「His Masterpiece」と題して、明治35年正月英訳
- 2) 「居酒屋」の悲惨は、のちにボードレールに影響された作品に影を落とす。
- 3) “1896年巴里フィエガロ新聞に寄せた一論文 J'accuse (余は弾劾する) と題せるもの (ドレフェー事件の時)”
- 4) ゾラの論文「余は弾劾す」が荷風の短篇「花火」に影響を及ぼし、荷風の作風に一転機をもたらした。
- 5) アンリ・ド・レニエに対する関心がこのあたりからみられる。
- 6) “意識すれば「重ね袂」とも云ふべき一篇”
- 7) フランス現代小説への関心が最も高かった一時期であることを偲ばせる。
- 8) “弟ヴィクトル・マルグリットと合作”
- 9) 生涯愛読した作品に属する。
- 10) 典雅な趣味、過去への追慕から理想的な作品とみなしている。
- 11) ロティの作品の非情を肯定的に見て、生涯座右の書とした。
- 12) “自然派作家の短篇を集めた「メダンの夜集」の巻頭に、先生 (モーパッサン) が処女作^{まる}円ぼちゃの女という意味で脂肪の球と題した一篇を掲げた時……”
- 13) 及び “「仏蘭西の友情」「追放 (デラシネ)」「我兵士 (アツベル オ ソルダ)」「其面影 (ルール ヒュギール)」「メエツの娘”
- 14) ノアイユ夫人の詩をとおして文学の永遠性を見ている。
- 15) “漢文混りの戯文、狂詩を読む”
- 16) “英訳のものを読む”
- 17) ボードレールの出現の意味を荷風は折に触れ自身に問うている。
- 18) “蒲原有明が「幻覚」と訳して出版”
- 19) “フランスの文学雑誌、明治43年4月号”
- 20) “ポール・ベルレーヌと云う詩人の伝記、題名不明、3年ばかり前に出版”
- 21) “La Poésie populaire et la lyrisme sentimentale”
- 22) メーテルリンク (メーテルランク) の移入史上、この時点で読んでいることは興味深い。
- 23) “英語原文を読む”
- 24) “英訳を読む”
- 25) “英語原文を読む”
- 26) “明治時代、木曜会の文学者”
- 27) この作家の作品を生涯繰り返し愛読している。
- 28) “「怪談」の仏訳、訳者 Marc Logé”
- 29) 「流竄の楽士」は『紅茶の後』の中でも出色のものである。
- 30) “馬場孤蝶翻訳 (「三田文学」明治43年10月号所収)”
- 31) “草野柴二翻訳 (「三田文学」明治43年10月号所収)”
- 32) “原文ママ”
- 33) 『ふらんす物語』中の短篇の素材に、女主人公のモデルの墓がとられ、パリのドミモンデーヌの風俗と作者の心情とが融合されて描かれている。
- 34) ここに、ロマンティズムの本質を相当程度とらえている。
- 35) 出色のピエール・ロティ論である。
- 36) 好みである江戸文学の一ジャンルゆえうまく把えている。
- 37) この作品に対して嗜癖をあらわしている。
- 38) 「刺青」を激賞。これがあって谷崎は文壇に登場することができた。
- 39) “上田敏訳”
- 40) “森鷗外訳”

- 41) “ダンヌンチオの詩集の仏蘭西訳本”
- 42) “Paul Duka 作曲”
- 43) 『すみだ川』にこの作品の影響があるとみなされている。
- 44) “後藤末雄訳”
- 45) ゴンクウルにおける歌麿観を評するその論調は、荷風の芸術論の基調と一致している。
- 46) “ドイツの浮世絵批評家”
- 47) “Pergaud 作の動物小説”
- 48) 新井白石「折焚柴の記」か。
- 49) 座右の書のひとつと見られる。
- 50) “其一節を高村^{たかむらし}子が翻訳”
- 51) 春水の作品を熟読したことは周知のことである。春水の作品，その背景のみならず，文体への傾倒があったことに注目したい。
- 52) “役者評判記，寛文十年板”
- 53) 江戸切絵図のことか？